

論文審査の結果の要旨

報告番号	<p>甲 保</p> <p>第 38 号</p> <p>乙 保</p>	氏 名	富澤 栄子
審査委員	<p>主 査 友竹 正人</p> <p>副 査 葉久 真理</p> <p>副 査 芳賀 昭弘</p>		

題 目

Factors related to the uncertainty mild stroke patients experience during treatment (軽症脳卒中患者が療養中に抱く不確かさの関連要因)

著 者

Eiko Tomizawa, Ayako Tamura, Takako Minagawa, Yasuko Yokoi: 2019年7月発行 Journal of Japanese Academy of Neuroscience Nursing, Vol.5, No.2 : 47～56ページに発表済

要 旨

脳卒中による突然の病気の発症は、運動機能障害に伴う日常生活の困難や高次脳機能障害に伴う社会的役割遂行の困難・再発作など多くの問題を抱え、さらに長期の療養経過を辿り、患者は病気の認知はしているものの不確かな心理状況の傾向にある。本研究の目的は、脳卒中患者が抱く不確かさについて、関連する要因を明らかにすることである。対象者は、脳卒中を発症し入院中もしくは退院後外来に通院する患者で、認知機能が正常でコミュニケーションの可能な軽症脳卒中患者146名であった。診療録から、年齢、性別、脳卒中病型、発症後の期間、重複疾患の有無、脳卒中再発の有無、National Institutes of Health Stroke scale(NIHSS)得点、Barthel Index得点、同居家族の有無の情報を得た。脳卒中患者の病気の不確かさ質問紙(Universal Uncertainty in Illness Scale :UUIS)とSF-8質問紙を用い、併存的妥当性と内的信頼性を確認した。次に基本統計量を算出した後、UUISの関連要因を探索するために、有意な差を認めた項目について、UUISを従属変数とした重回帰分析を行い、NIHSS得点、発症後の期間、年齢が脳卒中患者の不確かさに関連することを明らかにした。NIHSS得点が2-4点の脳卒中患者においては、丁寧な病気に対する説明・補足が必要であること、75歳以上の高齢者や発症1か月未満の患者においては、脳卒中により生じた障害や治療などの複雑な情報を丁寧に説明することが必要であることが示唆された。

以上の内容は、脳卒中患者のNIHSS得点・年齢・発症後の期間で不確かさを特定できることが示唆され、脳卒中発症後の看護支援への基礎的資料を提供することが期待でき、その社会的意義は大きく博士の学位授与に値すると判定した。